

(学年) 第2学年、(教科・科目) 公民・現代社会

一斉学習

(単元) 国際経済のしくみと貿易の拡大

(本時のねらい)

外国為替相場と、変動相場制における円高、円安のしくみについて基礎的な知識を身につけさせる。また円高、円安が国際取引に与える影響をそれぞれ考察させ、変動相場制に移行してからの日本経済の動きを理解させる。

(ICT活用方法)

プレゼンテーションソフトを活用し、自国通貨と外国通貨の交換が必要となる場面や、円高、円安それぞれ時期において、自国通貨と外国通貨を交換した際の価格の違いをイラストを使って提示する。

(本時の展開)

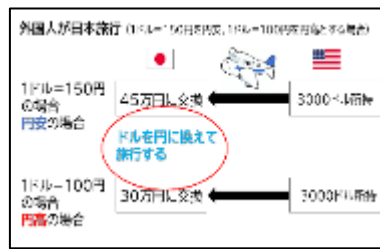
時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、日本は円安とされていることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の「1ドル=140円」、「円安」などのニュースを紹介する。 	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・外国為替相場について知る。 ・円高・円安における国際取引での影響、円高・円安になる理由を知る。 ・変動相場制以後の日本経済の動きを知る。 ・為替相場の安定とIMFの役割について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際取引において、自国と外国の通貨交換、またその交換比率があることを確認させる。 ・円高、円安の両方で円とドルの交換を計算し比較させるとともに、それを基に輸出入や海外旅行ではどうなるかを考察させる。また円からドルへ、ドルから円へと需要が変化することで円高や円安になることを理解させる。 ・日本の国際取引における経済の動きと円高・円安の関係について教科書の表をみて理解させる。 ・アジア通貨危機や世界金融危機でIMFが金融支援を行ったことを理 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出入や海外旅行での円高・円安の影響を、利益など金額でそれぞれ表示する。 ・輸出入や海外旅行で必ず行われる通貨の交換を強調して表示する。

		解させる。	
まとめ 5分	・現在の日本が円安になっている理由を知る。	・アメリカと日本の金利差が円とドルの交換にどのような影響があり、円高に進むか円安に進むかを、本時の内容を振り返りながら考察させる。	

(授業の様子)



教材投影方法



スライド①



スライド②

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

円高と円安それぞれの状況で円とドルを交換するとどれくらいの金額差があるか、また輸出入でどのような影響が出るかを、イラストなどを使って表示することにより考察する際のヒントにすることができた。しかし今回の授業ではワークシートなどを用意していなかったため、今後は生徒全員が作業する方法についても ICT を活用できるようにしたい。